

---

# 少女マンガちっくな夢

源雪風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

少女マンガちっくな夢

### 【Nコード】

N4832K

### 【作者名】

源雪風

### 【あらすじ】

実際に見た少女漫画みたいな夢のはなし。

(前書き)

少女マンガみたいな夢を見た。

悪の組織のアジトに潜入した。

仲間が中ボスと戦う中、私は奥のふすまを開けた。

中には電気鞭を持ったビジュアル系のお兄さんがいた。

全身黒い服。

ぴっちりしたズボンに、黒いシャツ。

その上にエナメル生地のジャンパー。

ネックレスは銀の十字架。

髪は肩に着くか着かないかの長さで、うっすらクリーム色。

瞳は金色。

電気鞭は蛇のようにくねくねして、からみついてくる。

しびれて体が動かなくなった。

そこに、無表情は青年が一人やってきた。

「兄さん、侵入者が。」

素晴らしい棒読み。

「てきとーにけちらしとけ。俺は忙しいんだ。」

「兄さん、初恋か。趣味が悪いね。」

そう言つて無表情さんは去った。

「ふふ。美形は何をやっても許されるんだよ。」

ビジュアル系は不敵にほほ笑んだ。

「気に入った。お前を姫にしてやろう。」

「はて？」と私。

「俺は実は雷神なのさ。さっきの味気ないのは、弟の風神。」

ということは、神の家に家宅侵入罪したのか。

「お前にしびれたぜ。今日はお前は俺の姫。」

いつの間にか、私は紅い着物を着ていた。

「俺は神だから、何でも出来るぜ。お前の嫌いな奴は雷を落として

殺したっていいし、欲しいものは何でも与えてやる。」

雷神の目は、うつとりこちらを見ている。

「兄さんベタ惚れだね。たちが悪いや。」と風神。

「なんでもくれるなら、チョコプリンが食べたい。」

と、私はつぶやいた。

雷神は神速で買ってきた。

「俺が食べさせてやるよ。」

プリンをあーんで食べさせてもらった後も、ネコかわいがりされた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4832k/>

---

少女マンガちっくな夢

2010年10月9日21時21分発行